

「秋色の児童机(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

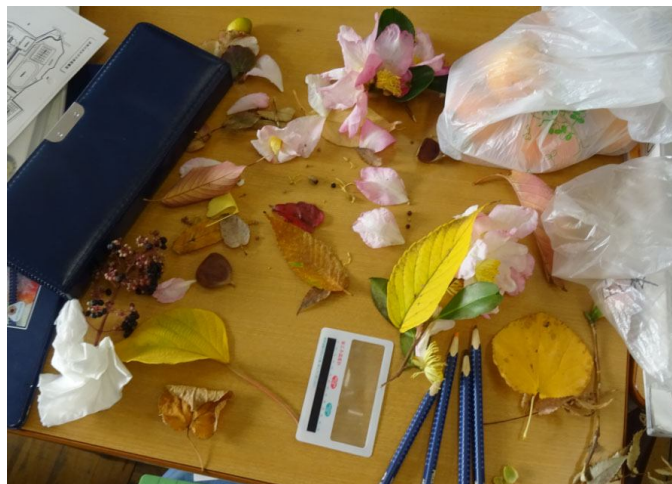
自然観察の為に屋外に出て、その場で観察カードを仕上げ帰るのは、なかなか容易なことではない。屋外で自然観察をする時は、ポリ袋を持っていき、その中に観察してみたいものを入れて持ち帰らせることにしている。



大学構内を歩くこと約30分、袋の中は「収穫物」で一杯になっている。ケヤキの葉、トウカエデの葉、カキ(渋柿)、何かの柑橘類、カラスウリなどが見える。なかなかの「大収穫」である。



持ち帰った観察対象は、さっそく誰もが机の上に並べてみる。カキがたくさん、クリのイガと実、サクラの紅葉した葉、ウメの実、クズの実、カラスウリなどが見られる。いわゆる「武蔵野の里山」に見られるものが見事に揃っている。大学構内で、こうしたものが自由に採ってこられるというのは、非常に恵まれた環境にあると、改めて感謝した。



これは女兒の机上。ケヤキの葉、カツラの葉、クリの実、右上の袋の中にはカキの実がたくさん入っている。目立つのはサザンカの花弁だ。11月下旬に開花している花はあまりない。サザンカは貴重な花だ。



こちらは男児の机上。カキやサザンカも実や花だけでなく、葉も一緒に持ち帰っている。カラスウリも実だけでなく、ツルも持ち帰っているところがすばらしい。観察カードにも、それらが描かれていた。



希望者には、カキやカラスウリの実を切って観察させた。この男児は、カキの実の中に種が入っていることに驚いていた。当たり前なことだが、初めて見たので感動したのだろう。一生懸命に描いていた。